

DANDRYU



Dynamic Action News
for Regional Yield and Utility

2013.3
No.40
March

Association information

発行
公益財団法人鹿児島県国際交流協会
KAGOSHIMA INTERNATIONAL ASSOCIATION

～鹿児島で世界を語ろう～第18回外国人による日本語スピーチコンテスト

平成25年1月12日(土)の予選では、昨年より多い11の国・地域から31名の外国籍の方が日本語でそれぞれの想いを発表しました。その中から選ばれた6つの国・地域の10名が、2週間後の1月26日(土)に、かごしま県民交流センターの中ホールで開催した本選へ出場しました。

10名の本選出場者は、予選の時よりも更にパワーアップし、表情やジェスチャーに工夫を凝らして、7名の審査員と約230名の御来場者の前で発表を行い、会場に響き渡るほどの拍手をいただいていた。



《最優秀賞 田 眩培さん》



《たくさんの方に御来場頂きました!》

最優秀賞を受賞されたのは、現在、鹿児島大学で学んでいる韓国出身の田 眩培(チョン ヒョンベ)さん【タイトル:「大人」が大好きな日本人は皆コドモ?!】。日本と韓国の「大人」という言葉についてのイメージの違いなどについて、ユーモアを交えながら発表し、「私はこれから、もっと個性豊かな『大人のよかにせ』になって、ここ薩摩での留学生活を楽しみたいと思います。」という締め言葉で、審査員や御来場の皆さんの心をグッと掴んだ様に感じました。

優秀賞は、アメリカ出身のベック カリフォルニアさん【タイトル:中学生からみた東日本大震災】、タンザニア出身のマズラ メリー ウィリアムさん【タイトル:命は特別で大切なものだ】、韓国出身の郭 一榮(カク イルヨン)さん【タイトル:交わる】の3名が受賞、審査員の心に強く残る発表をした方に贈られる審査員特別賞は、曾於郡大崎町と出身国を結ぶ活動について発表されたインドネシア出身のプルナマワティさん【タイトル:リサイクル活動に取り組む町】に贈られました。

人前で、しかも外国語でスピーチをしようと思うこと自体が、大変勇気のある行動ですが、本選に進まれた10名は、とても堂々と発表してくださいました。これから更に、出身国・地域と鹿児島とを結ぶ架け橋へと変わってくださることを願っています。



《本選出場者(前列)と審査員(後列)》

日中友好40周年記念事業



「きれいな色の提灯ができました。」

本年が日中国交正常化40周年となることを踏まえ、平成24年9月22日（土）から10月6日（土）までの間、国際交流プラザで、中国の日常生活や鹿児島と中国の交流の様子等を紹介する写真パネル等の展示を行いました。期間中は、「日中友好40周年記念フォトコンテスト」（県日中友好協会・鹿児島市日中友好協会主催）の展覧作品の展示、県や県内市町と中国の省・市との友好盟約締結やその活動状況のパネル紹介を行い、たくさんの方にお越しいただきました。初日は中国伝統楽器の演奏と舞踊があり、二胡の心に沁み入る音色と美しい舞踊に、ひと時の楽しい時間を聴衆の皆様と過ごすことが出来ました。また、写真パネル等の展示に合わせ、「初めての中国留学」、「中国風切り絵」、「灯谜遊び」や「中国流行雑談」といった文化紹介講座を開き、参加者の方から「貴重な体験談をうかがえて良かった。」「とても楽しくあっという間に時間が過ぎた。」といった嬉しいお声をいただきました。

鹿児島県青少年国際協力体験事業

当事業は、鹿児島県青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊鹿児島県OB会及び当協会の3団体が連携して企画・実施しているもので、平成2年度の開始から21回目を迎えました。今回は、平成24年7月22日（日）から29日（日）までの8日間、県内各地から集まった中高生16名をベトナムのティエンザン省にあるヴィントオイ村に派遣しました。

派遣期間中、団員達は4泊5日のホームステイや現地中学校との交流を通して、両国の文化の違いやベトナムの魅力を感じ、互いの理解を深めました。また、青年海外協力隊員の活動現場を訪問し、言葉や文化の違いに屈することなく、ベトナムの発展のために努力している隊員たちの姿に深く感銘を受け、日本人として海外に貢献できる可能性と自身の進路について考えるきっかけとなったようです。団員の皆さんにとって、今年の夏は貴重な体験を得た特別な夏として心に残ることと思います。皆さんの今後の成長を楽しみに、応援しています。

第21回（平成24年度）報告書：<http://www.synapse.ne.jp/kia/international/taikenjigyo.html>



「現地中学校交流時の記念写真」

韓国全羅北道文化探訪団派遣事業

韓国全羅北道庁の御好意と御協力で実施されている本事業も、今回で4回目となりました。今回も参加者から「韓国の方のおもてなしの心や人情深さにとても感激した。」「全羅北道の百済から続く文化についても興味深く見せてもらい、他のツアー旅行では体験できないような事も体験させてもらった。全羅北道のファンになった。」などの感想をいただき、皆さんが全羅北道の文化、歴史を堪能し、韓国の方々のおもてなしに感動されたようです。

今回は、青年枠と一般枠を設け、青年枠の方はホームステイを体験しました。ホストファミリーの皆様は、大変温かく迎えてくださったようで、韓国語を話せない方も別れる頃にはかなり打解けて話をされていました。また、餅つき体験では、ホストファミリーと一緒に餅をついて、参加者全員で交流を楽しみました。

歴史や人情味あふれる全羅北道を是非一度、訪れてみてください。当協会も引き続きその魅力をPRできればと思っています。



「馬耳山にて全員集合」

香港城市大学日本語研修

日本語を学ぶ香港城市大学専上学院の学生11名が来鹿し、平成24年7月8日(日)から29日(日)までの22日間、日本語学習をはじめ、7泊8日のホームステイ、浴衣着付け、茶道、日本料理作りなどを含む研修を行いました。

香港では、手持ち花火が法律で禁止されているため、スーパーマーケットで初めて見た花火売場に大喜びし、たくさん写真に収めていました。お世話になったホストファミリー宅でも初めての花火体験を楽しんだようです。

ホームステイ対面式は全員とても緊張していましたが、日本の家庭で約1週間生活し、家族の温かさに触れ、あっという間に家族の一員になったようで、お別れ会や空港では別れを惜しみ号泣していました。ご協力いただきました先生方をはじめホストファミリーの皆さまに心から感謝致します。

22日間の研修を経て、日本への知識・関心を更に深めて香港へ戻った11名の学生たちが、今後、鹿児島と香港の架け橋へと変わってくれることを願っています。



《浴衣を着て照国神社六月灯へ行きました!》

鹿児島県青少年海外ふれあい事業



《カンパチへのエサやり体験》

この事業は、鹿児島県からの受託事業として平成22年度より当協会で開催しているものです。香港・シンガポールの青少年を受入れることにより、青少年交流を促進し、相互理解を深め、国際感覚豊かな鹿児島県の青少年リーダーを育成することを目的とし、今回は平成24年8月16日(木)～8月23日(木)までの7泊8日間、香港青少年の受入を行いました。

香港政府より選抜された18～22歳の青少年15名と随行者2名は、本県青少年との交流会・天文館ウォーク、野外バーベキューや錦江湾でのカンパチへのエサやり体験などで交流を深めました。また、香港青少年の皆さんは、2泊3日のホームステイを通じて、日本の日常的な家庭生活を体験しました。この一週間をとおして、香港と本県の青少年は言葉の壁にぶつかりながらも懸命に相手を理解しようと努め、互いの文化や習慣についての理解を深めながら友情を育くみました。本県青少年にとっては、国際感覚を養い、自ら積極的にコミュニケーションをとることの大切さを実感した1週間だったと思います。今後、参加者同士が交流を深め、その輪が広がっていくことで、香港と本県との関係がより強い絆で結ばれていくことを期待しています。

南カリフォルニア県人会 学生の受入れ

南カリフォルニア鹿児島県人会からの依頼により、県人会会員の3世・4世の子どもたちに先祖の故郷である鹿児島の生活を体験し、新たに鹿児島とのつながりを作ってもらうことを目的として、平成24年7月8日～7月19日までの間、当協会は男子学生2名の受入を行いました。

受入期間中は、鹿児島でのルーツを探す旅やホームステイ体験、また当協会の日本語教室参加者との交流や大学・短大を訪問して学生と交流しました。

鹿児島でのルーツを探す旅では、それぞれの学生の祖父の出身地である南さつま市と南九州市を訪問し、親戚と対面し先祖の墓参りをしました。積極的にできるだけ多くのものを見て帰りたいと、現存する祖父の実家を見たり、親戚から話を聞いたりして、自分のルーツについて理解を深めることができました。初めて会う親戚とも祖父の話を通じて絆を結ぶことができました。日本の生活習慣や文化を体験し、人との交流の中で自分と鹿児島のつながりを作り、鹿児島をより身近に感じていただくことができました。



《学生(中央2名)が親戚と対面しました。》

青年海外協力隊OBと留学生が先生事業



《鹿児島市立黒神小学校にて》

鹿児島県青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊鹿児島県OB会と当協会の3団体が連携して実施しているこの事業は、年間40校以上、平成7年度の事業開始以来、のべ700校以上の県内小・中学校に、青年海外協力隊として世界各国で活動していた帰国隊員を講師として派遣しています。

学校の希望により、留学生など県内在住外国人も同行し、母国の紹介を行うこともあります。(年間派遣校の約半数)

写真や音楽、民族衣装などを使用し、様々な工夫を凝らした各講師の授業は、学校より大変好評をいただき、児童・生徒からは、「これからは『当たり前』だと思ふことに感謝します。」、「民族衣装を着ることができて嬉しかった。」、「もっと色々な国についても知りたい。」などの感想があり、国際協力や発展途上国に対する理解と関心を深めてもらう良いきっかけになっているようです。

平成24年度事業実施レポート：<http://www.synapse.ne.jp/kia/international/rikai.html>

県国際交流員による文化紹介講座



《熱心にメモを取る子どもたち》

鹿児島県国際交流員（韓国・中国・アメリカ・シンガポール出身）の4名が自国の文化を紹介する講座として5月から2月まで6回開催しました。

南種子町の講座「韓国の歴史と文化を学ぼう」、枕崎市の「自分づくり講座」、日置市の「まるごと伊集院フェスティバル」、曾於市の「青少年リーダー研修（国際体験）」等において、県国際交流員が出身国の紹介や料理講座を行いました。

南種子町では、H-II Aロケットによる韓国衛星打ち上げに合わせて、韓国文化の理解のため、「韓国の歴史と文化を学ぼう」と題し、多くの子どもさんをはじめとした町民の皆様に参加いただき、韓国の概要や韓国語のあいさつなどを紹介しました。講師の韓胤鎬（ハン ユンホ）さんは、アニメやゲームの話も混ぜながら子どもたちに分かりやすく、興味を持ってもらえるよう質問を投げかけたりしながら韓国について紹介しました。

各市町の皆様と楽しく交流しながら、県国際交流員の出身国について理解していただく良い機会となりました。

県内在住外国人による公募型国際理解講座

県内に在住する外国籍の方々を公募し、自国の文化を県民に紹介する講座として2回の国際理解講座を行いました。

今年度は、「エジプト料理&文化紹介講座～コシャリを作りましょう～」と「中国文化紹介講座～上海ってどんなところ？」の講座を行い、参加者の皆様から、「料理を作ったり民族衣装を着たりして、その国について学べてとても楽しかった」、「自分が知っていた知識は表面的なことばかりであったと気付いたので、もっと深く学んでみたいと思った。」など、大変好評でした。エジプト料理「コシャリ」は、エジプトの庶民的な料理で、マカロニ、ひよこ豆やレンズ豆を混ぜたご飯にトマトソースや揚げた玉ねぎをかけて混ぜるボリュームのある料理で、参加者は皆満腹になり大満足でした。

両講座とも講師と距離が近く、アットホームな雰囲気の中で講座を行うことができました。



《エジプト料理「コシャリ」作りの様子》

「英語絵本の読み聞かせ」講座



《10月のハロウィンにちなんだ講座の様子》

幼少期から英語に触れる機会を提供し、英語への関心を高めてもらおうと、小学校低学年くらいまでの子どもを対象とした県国際交流員による英語絵本の読み聞かせ講座を7月から3月まで8回行いました。

7月の「3匹のこぶた」、9月の「はらぺこあおむし」、1月の「にじいろのさかな」など子どもたちにとって馴染み深い絵本、またハロウィン、感謝祭やクリスマスには行事にちなんだ絵本を読みました。

講師の読み聞かせに子どもたちは熱心に耳を傾け、絵本の中の印象的なフレーズを一緒に繰り返すなど、毎回楽しく和やかな雰囲気講座は進みました。

また、英語の手遊び歌や簡単な工作も行いました。工作では、子どもたちが出来上がった作品をとびきりの笑顔やはにかんだ様子で講師に見せるなど、ほほえましい姿が見られました。今後も、子どもたちが楽しい気持ちで英語に触れる機会となるよう努めていきたいと思ひます。

日本語・日本理解講座

鹿児島で生活する外国の方々、生活に役立つ日本語、日本人の生活習慣や様式などについて学ぶ「在住外国人のための日本語・日本理解講座」を平成24年5月から平成25年2月まで全60回（火曜日クラス30回、木曜日クラス30回）実施しました。

今年度は体験型学習として、実際にピザ屋や寿司屋への電話注文、ファーストフード店での注文やバスの乗り方など、日常の場面を想定した練習を行いました。受講者の皆さんは、臨場感あふれる授業を積極的に楽しんでいただけたようです。

今年度の講座が終了するにあたり、受講者から「今後は介護について勉強したい。」「鹿児島弁を勉強したい。」「和食を勉強してみたい。」という声が寄せられました。この一年間の日本語学習をとおして、日本語だけではなく、日本文化への興味も一層深めていただけたようです。



《授業後の集合写真》

多文化共生地域づくり事業

本年度は、鹿児島に暮らす外国籍の方々に防災についての知識を身につけて頂こうと、始良市の鹿児島県防災研修センターで「来て・見て・体験！在住外国人のための防災基礎知識講座」を行いました。

エジプトやフィリピンより8か国17名の在住外国人の方が参加しました。

防災研修センターでは「火山災害コーナー」・「風水害・土砂災害コーナー」・「地震コーナー」・「火災コーナー」



《鹿児島の活火山の場所を学んでいる様子》

を見学し、展示物に触れながら鹿児島で起こる災害や防災について学びました。また、非常時には身近にあるもので対応する必要があるため、家庭にあるビニール製のごみ袋を使って防災カップ作りを行いました。

参加者からは「今回の講座をきっかけに更に防災に関心を持った。」「今後も防災に関する講座に積極的に参加したい。」という感想が寄せられました。

参加した在住外国人の皆さんにとって日頃から防災について考えておくことが、いかに大切かを知ってもらった良いきっかけになったのではないかとと思ひます。



民間連携ボランティア制度

昨今、企業による新興国への事業展開、開発途上国を対象としたBOPビジネス（BOP：Base of the Pyramid 貧困層に対しての開発問題に取り組むビジネス）への関心の高まりなど、企業活動がグローバル化する中、幅広い視野や素養を備えた人材の確保も課題となっています。

JICAでは、このようなニーズに応えられるよう、企業と連携してグローバル人材の育成に貢献するJICAボランティアのプログラム「民間連携ボランティア制度」を創設しました。

【対象者】満20歳～満69歳（応募時）で日本国籍を持つ方

【派遣期間】★長期：原則1～2年

★短期：原則3～10ヶ月（1年未満）

【受入国・要請内容】企業のニーズを踏まえて決定

【募集期間】随時

※民間連携ボランティア制度への参加は、企業が株式会社または持分会社であることが必要です。



社員をボランティアに派遣することにより、現地での活動から語学力のみならず、幅広い視野、高度なコミュニケーション能力、異文化適応能力などを身につけ、さらには現地でのネットワークを構築する等、帰国後、企業活動に還元することが期待できます。

JICAボランティアにご興味のある方は、下記連絡先までお気軽にお問い合わせ下さい。

<JICAデスク鹿児島> TEL：099-221-6624（直通）E-mail：jicadpd-desk-kagoshimaken@jica.go.jp

国際交流プラザ（サロン&事務局）のご案内

- ・ イベント情報等の掲示板
- ・ 図書・ユニセフビデオ・国旗・民族衣装・地図の貸し出し
- ・ 外国語テレビの放映（英語BBC、中国語CCTV、韓国語KBS）
- ・ 外国語新聞、雑誌等の閲覧
- ・ 在住外国人の生活相談
- ・ ランチャイム中国語（毎週火曜12:30～13:30）
- ・ 韓国語ランチャイムトーク（毎週水曜12:00～13:00）
- ・ ランチャイムイングリッシュクラブ（毎週金曜12:00～13:00）



サロンの他、国際交流に関するご質問、JICAに関するお問合せや、ホストファミリー・語学ボランティアの登録については、事務局にて随時受け付けております。国際交流プラザへお気軽にお立ち寄りください。

《開館時間》9：00～17：00（火曜日～日曜日）

《休館日》月曜日（但し祝日の場合はその翌日）・年末年始（12月29日～1月3日）

【国際交流プラザ、本誌に関する問合せ先、相談窓口】

公益財団法人 鹿児島県国際交流協会

〒892-0816 鹿児島市山下町14番50号 かごしま県民交流センター1階

TEL：099-221-6620

FAX：099-221-6643

E-mail：kia@po.synapse.ne.jp

ホームページ：<http://www.synapse.ne.jp/kia/>

E-mail：kia8@po.synapse.ne.jp（相談窓口専用）